

東京の産業と教育

会 の 目 的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

産業競争力の基盤強化に不可欠な 産業職業教育

公益社団法人 経済同友会 常務理事

伊 藤 清 彦



経済同友会は、企業経営者が個人として参画し、より良き経済社会の構築に貢献するという自覚と連帯の下に、一企業や特定業種の利害を超えた幅広い先見的な視野から、変化の著しい国内外の諸問題について議論し、提言をまとめ、その実現を目指して活動しています。本会には、経済、社会、政治といった様々な分野の課題を検討する政策委員会が 30 以上あり、それぞれで議論を深めています。最終的には人材育成・教育といった課題に行き着くことが多々あります。

産業競争力の源泉としての人材育成は極めて重要で、これは世界共通の課題といえます。モノづくりで高度成長を果たし、コトづくり（多様化するグローバルマーケットでの徹底したマーケット側からの視点によるビジネスづくり）によってさらなる競争力強化を目指す日本にとっては、人材育成が最重要課題の一つです。それには学校教育が不可欠です。創造性を育み、論理的思考も活用し、現場力で課題解決に取り組むことができる人材教育が求められています。日本では大学進学率が 5 割を超え高学歴化が進む中で、理工系人材の不足と相まって、大学生の相対的な質の低下、そしてその影響もあってかホワイトカラーの生産性向上が喫緊の課題となっています。

欧州、特にドイツでは産業競争力の基盤として職業教育、資格制度が果たす役割が大きいといわれていますが日本においても産業職業教育の重要性はますます高まっていると思います。

本会では教育に係る提言実践活動を積極的に行っ

ており、初等、中等、高等教育の各レベルの改革提言、そして教育全体を視野に入れた提言も数多く発表しています。例えば、「理科系人材育成として、『論理的思考力』は必須であるが、これは社会人としても必要であり、そのために、理科系教育が有効である」との視点から初等から高等教育にいたる体系的な理数教育の実施が不可欠との提言も行っております。このように大学・大学院はもとより、中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学、そして専修学校等の人材育成に対する企業経営者の期待は大きく、輩出される人材は産業競争力の基盤強化に欠かせないとの共通の認識を持っております。

本会では、実践活動の一環として 1999 年より経営者による中等教育機関への出張授業、PTA や教職員の方々との意見交換を続けています。そして東日本大震災後に立ち上げた IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる 5 年間にわたる被災 3 県の職業高校などへの学習機材の寄贈、震災で保護者を亡くされた子どもたちの生活支援、そして被災地の職業高校等への出張授業も積極的に行っております。本会は、産業競争力の基盤を担う学生たちと企業経営者との交流活動が我が国の産業競争力基盤強化の一助につながればと考えております。東京都産業教育振興会ご所属の会員校で本会会員による出張授業を希望される場合は本会事務局までご連絡いただければ幸いです。

[出張授業については

<http://www.doyukai.or.jp/kyoiku/index.html>
をご覧ください]

進学型総合高校としてのキャリア教育への取組

東京都立東久留米総合高等学校

副校長 若 林 直 司



1. はじめに

本校は都で7番目の総合学科高校として平成19年4月に開校し、今年で7年目を迎えた。進学型総合高校を目指す本校のキャリア教育を、東京都教育ビジョン（第3次）が目指すこれからの教育（10の取組）のうち、直接生徒の能力向上に関わる6つの視点から紹介する。

2. 本校のキャリア教育

○取組の方向2 個々の能力を最大限に伸ばす

○取組の方向4 社会の変化に対応できる力を高める

上級学校や社会を知り、職業的自立を図る教育の中心は1年必修科目「産業社会と人間」である。思考力・判断力・表現力を育成しつつ、時代の変化や社会の要請に応えることのできる能力を育成している。平成24年度の授業内容は以下の通りである。

1学期：3年後の自分、久留総での3年間、模試結果の見方・進路選択(1)、進路選択(2)、マインドマップによる自己理解、KJ法による職業探索、自己理解テスト・進路選択(3)、夢ナビ関心ワード・定期考査に向けて、選択科目説明会・オープンキャンパス
2学期：オープンキャンパススピーチ、夢ナビ講義シートを読む、夢ナビ1分間スピーチ、前半の振り返り、ホランドの職業適性・分身1号の1日、思考力を鍛える・マインドマップ第3回、エコグラム・絵画テストによる自己理解、グループワーク・暗記法、フォトリディング・スピーチ準備

3学期：1分間スピーチ、コラージュ療法、ミステリーによるミニ論文、ミステリーによる小論文(2)、エニアグラムによる自己理解、1分間スピーチ、自己理解・他者理解ワーク、1分間スピーチ発表会

○取組の方向1 学びの基礎を徹底する

基礎基本の定着と学ぶ意欲の向上は、進学型総合高校を目指す本校の柱の一つである。ほとんどの授業で教科で統一した小テストを実施している。基準に満たない生徒は合格するまで再テストを繰り返す科目も多い。また、各学年とも毎週1回英単語の小

テスト(30問)を実施している。(25点未満は再テスト等)。また、定期考査や日常の学習状況に課題のある生徒は、考査前2週間制度により部活動を禁止し学習に専念するシステムになっている。生徒の学習意欲を高めるため、模試結果における優秀者を廊下に貼り出す等の工夫をしている。その結果、多くの生徒は学力を着実に向上させ、今春卒業生の63.8%が大学・短大進学を果たしている。過去3年間の就職した生徒の離職率も0%である。

○取組の方向3 豊かな人間性を培い規範意識を高める

自主自立的な態度や、道徳心、社会性を身に付けるために、本校では生活指導に力を入れている。スローガンは、「だらしない、みっともないと思われるような身なりや行動をせず、地域から信頼される学校を目指しての生活指導」である。また、平成25年度は、「道徳・奉仕」先行実施校として生徒の豊かな人間性の向上に取り組んでいる。

○取組の方向5 体を鍛える

本校の部活動加入率はほぼ100%である。開校7年間で、運動部、文化部を含めて、延べ9つの部が関東大会や全国大会に出場した。今年は男子サッカー部が関東大会予選で都大会優勝を果たし、体力向上と競技力向上という視点からも、都立高校の代表的な部として活躍している。

○取組の方向6 健康・安全に生活する力を培う

防災宿泊訓練の他に、自助、共助の実践力を高める活動として、3月に「クルソーレスキュー」を実施している。消防署や地域の自治組織等と連携し、AED講習、応急手当、消火訓練、煙体験、起振車体験、けが人搬送訓練、通報訓練、総合訓練等を行っている。

3. まとめ

開校6年間の取組を検証し、進学型総合高校としてさらなる飛躍を果たすため、キャリア教育への一層の取組と体系化を課題として、全校一丸となった取組を今後も推進していく。

地域に打って出る都立農芸高校の取組

東京都立農芸高等学校

副校長 吉 野 剛 文



1 学校の概要

本校は創立 113 年の伝統ある農業の専門高校である。全日制に園芸科学科、食品科学科、緑地環境科の 3 学科 4 学級、定時制に農芸科 1 学科を設置している。都心にありながらも緑に囲まれた校舎、実習棟や農場など広大な敷地を持ち、最新の施設や設備が導入されている。

2 本校の取組

本校は、JR 阿佐ヶ谷駅の花壇植栽や高齢者施設での園芸ボランティアなど、杉並区内において、農業・食料・環境に関するさまざまな地域貢献活動を行っている。生徒と地域が一体となり地域貢献活動を行うことを目指し、諸機関の相互連携を図るネットワーク「杉並の農・食・環境協議会」を設立している。協議会では、杉並区で活動するさまざまな団体が一堂に会し、杉並区の農業・食料・環境に関する地域貢献活動を推進している。

その取り組みとして、幼稚園、小学校、福祉施設などにおける園芸活動を支援する人材を育成するために、教科奉仕の中で「緑のボランティア」講座を実施している。

(1) 地域への植栽活動

①阿佐ヶ谷駅前花壇植栽（年 3 回）

杉並区の顔として阿佐ヶ谷駅前の花壇を、本校生徒と緑のボランティアが協力し合って定期的に植栽を行っている。

②今川商店街花いっぱい運動

年 3 回、鉢花を商店街に提供している。協力店舗は 23 カ所であり、一店舗に 2 プランターの提供を目安にしている。プランターの表面に農芸高校のラベルを貼ることで、本校の PR を行なっている。この取り組みは、学校の持つ教育力を発信するとともに、地域の教育力を活用しており、生徒達は体験的な経験を体得している。

(2) 東京三菱UFJ 銀行荻窪支店の屋上庭園

J R 荻窪駅の南口にある、東京三菱UFJ 銀行荻窪支店の 4 階には屋上庭園がある。施工の段階で緑

地環境科の 3 年生が庭園の設計会議に参加して完成させた。この屋上庭園の施工プロジェクトは、地域社会に公共の広場を作ることを通して、地域に貢献する態度を育成する。また、屋上緑化や屋上緑化植物への知識と関心を高めさせることを目的とした。平成 24 年度は、年 3 回の植え付け管理を行ない、作業は教科奉仕の中で花壇の手入れと剪定・除草作業などを行った。作業時間は、約 2 時間 30 分程度の時間を要する。

(3) 生徒実習生産品の販売

本校では、生徒実習で生産した野菜・草花・果樹・味噌・ジャムなどを売店や農芸祭にて販売している。生産物は、添加物がなく安価で新鮮であり地域からの評価は高い。

3 環境教育

本校は環境に優しい農業高校を目指し、校内だけではなく地域の緑化活動にも力を入れている。その一環として、環境の認証「エコアクション 21」の取得を目指し、平成 18 年 10 月 19 日に念願の認証を取得した。この環境に関する取り組みを、積極的に発信してすることで環境保全施策に協力している。また、地域の環境改善活動にも参加し、社会貢献活動を推進している。

①緑化促進活動

約 80,000 鉢以上を栽培して地域緑化に利用している。また、グラウンドの芝生化の維持管理を実施している。

②環境教育活動（農芸フォーラム）

全校生徒対象に農・食・環境に関連した講演会を年間 3 回実施している。校内では農芸フォーラムと位置付け、基本的には農業分野に関連するテーマを設定し、外部講師による講演会を実施している。

以上のように、本校は「農業・食料・環境」のセンター校としての教育機能・教育財産を活かして、地域への緑化事業、環境改善のための啓発活動を全校一体となって取り組んでいる。

日の丸自動車興業株式会社

資本金：1億円 代表取締役：富田 浩安
 本社：東京都文京区後楽 1-1-8
 TEL：03-3955-1188

＜創業＞

昭和25年6月 日の丸自動車株式会社設立

＜従業員数＞

300名

＜事業内容＞

一般貸切・一般乗合旅客自動車運送事業、旅行業

＜営業拠点＞

東京都文京区後楽、千代田区丸の内、墨田区業平、
 板橋区小茂根、埼玉県新座市、神奈川県横浜市、
 千葉県成田市

＜経営理念＞

「今日の仕事は上手くいかなかったから、次回はここを工夫しよう。」

このような日々の反省は重要ですが、同じお客様にやり直しは出来ません。私たちは一日一日を大切に作る心構えとして、「腕よりも心」の社是を胸に、お客様へ安心と、よりご満足いただけるようサービスの向上を目指します。

＜青少年へのメッセージ＞

私たちは、規制や固定観念に対し「挑戦」することで成長してきました。日本初の電気バスや2階建てオープンのスカイバス、水陸両用車スカイダックなど、地域活性化に貢献する交通事業に、積極的に取り組んでまいりました。これからも、「挑戦」しお客さまに喜んでいただく精神を一貫して持ち続けたいと思っています。皆さんにも、未知の世界を切り開く行動力・勇気・知恵を自ら培っていくことを願っております。



五輪メダリストのパレードに使われた弊社のスカイバス

宮内庁御用達 箸勝本店

〒101-0021 東京都千代田区外神田3-1-15 箸勝ビル
 TEL 03-3251-0840 FAX 03-3251-4084
<http://www.hashikatsu.com/>

明治43年創業以来、国産の「割箸」に特化し、安全に安心してお使い頂ける本当に良い箸にこだわりを持ち割箸販売の専門業者として、国内のみならず海外の日本料理店にも販売致し、日本の食文化を広く海外にも広めるとともに、間伐材や端材を活用することで、森林環境保護と育成にも寄与し、今後も日本の伝統文化を後の世代に継承して参ります。

お箸は食事の際、まづ最初に手に取り、唯一、唇や歯や舌にも触れる毎日使われる食器です。お食事の味にこだわれば、直接お料理を口に運ぶお箸にもこだわりが生まれます。

「いいお箸で美味しいお食事を」

弊社は、割箸の一流品、吉野杉・吉野松の国産箸にこだわり常日頃営業活動を致しております。

「いいお箸で美味しいお食事を」と云うのが私共の願いです。



商業科の高等学校に学んで

安部学院高等学校 3年 篠崎 祥恵

私が商業科である安部学院高等学校に入学した理由は、高校卒業後に就職を希望し、そのために多くの資格を取得したいと考えたからです。

入学前は、初めて学ぶ商業科目に「自分はやり遂げられるのか？」と不安もありましたが、基礎から学ぶことが出来、補習などをして頂いたり、復習をすることで、今ではパソコン、簿記、電卓、秘書検定などの資格を取得することが出来ました。

特に私が力を入れたのは、秘書検定、サービス接客検定です。就職希望の私にとって、絶対に取得したい資格の一つでした。もちろん合格を目標にしていたのですが、「マナーや礼儀」を身に付けたいと心掛け、努力しました。

また、安部学院高等学校では、「挨拶」を大切にしています。「挨拶」は、社会に出れば当たり前のことですが、普段の生活の中で意識をしなければ、「気持ちの良い挨拶」をすることは出来ません。高校生活の今でしか教えてもらえないことを学べる場所が、商業科の学校にはあると感じています。

そして、検定試験を通して、勉強を諦めなかったこと、苦手なことに向き合うことが出来、挑戦することで精神

的にとても成長することが出来た気がします。検定試験前は、クラス全体が「合格しよう！」と互いに教え合い、とても良い雰囲気になり、支え合える仲間がいるからこそ、一つでも多く合格しようと思うことが出来ました。

卒業後は、商業科で学んだ挨拶や一般常識を、自信を持って行動に移していけるように、努力する気持ちを忘れず、にどんなことでも積極的に取り組んでいきたいです。



設備工業科で学ぶ

都立蔵前工業高等学校

設備工業科 3年 川瀬 刻未

私が設備工業科に入ろうと思ったのは、中学二年生の時です。その頃から工業系に興味を持ち、工業で学ぶ分野で悩んでいたときに、蔵前工業高校設備工業科のホームページを見ました。その時まで私は建物の外側ばかり見ていて、空調や衛生などの内側を知ろうともしなかった自分に恥ずかしさを感じました。同時に、もっと詳しく知りたいと思い蔵前工業高等学校に進学することを決めました。

入学後、授業を通して建物は外側と同じくらい内側も重要であることを知り衝撃を受けました。一つの建物を建てるためには、外側の図面だけではなく内側の図面においても色々な分野があり、これらは、それぞれの担当する企業ごとに分かれています。つまり、一つの建物を建てる設計の時点で、色々な人や企業が集まらないと建物を建てる事が出来ないこと。また、外側に比べて内側はあまり目立ちませんが、建物が完成した後に使用者と深く関わるのが内側だと私は考えられるようになりました。空調の効き過ぎや衛生環境が悪いと使用者が不快に感じる原因となります。したがって、使用者が快適に過ごせる環境作りを考えなければなりません。

設備工業科では、一年次に設備の基礎、二年・三年次に専門的な知識・技能を学び、実際に配管の製作も行います。また、空調実験装置や衛生実験装置を使用し、教科書の理論が正しいことなのかを自分たちで調べます。そして、三年間の集大成である卒業設計では、一人ひとりが事務所レベルの設計を行います。勉強は、大変難しいですが三年間の全てが将来の事に繋がる大切な時間なので、時間を有効に使い将来のために頑張っていきたいと思っています。



平成 25 年度 総会・功労企業表彰 報告

平成 25 年度総会・功労企業表彰及び講演会が 6 月 3 日(月)午後 2 時から、都庁第二本庁舎 31 階特別会議室 21 において開催されました。

来賓として(公財)産業教育振興中央会専務理事の富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会副会長の後藤哲様(東京都立農産高等学校長)、東京都立中学校長会副会長の榎本智司様(新宿区立新宿中学校長)をお迎えしました。

開会にあたり、西澤宏繁会長から「先日、産業教育振興中央会の総会があり、最近の動静についてということで、中教審が出した第 2 期教育振興基本計画についてお話がありました。その中で職業教育への目配りが、少しずつ具体化されていると感じました。震災や様々な社会現象を受けて、現場で頑張ってくれている人たちの重要性や、フリーターなどの課題が長年の日本の大きなテーマであることなどについて理解が深まり、具体的な対応が議論され、案としていろいろなものが出てきつつあるように感じています。専修学校についての記述もあり、良い傾向であると思います。

産業教育振興会では皆様のお力を借りて、地道ではありますが着実に役立てるように、ご尽力をいただけてやっていきたいと思っています。何卒今年度もよろしく願います」との挨拶がありました。

引き続き、常任理事の直原裕都立学校教育部長からは次のような挨拶がありました。

「本会は産業界、教育界、行政が協力しながら産業教育の振興に寄与するということを目的に発足して半世紀以上が経っています。これまでの成果を我々の代で更に進めて行きたいと考えています。これまで、デュアルシステムの導入や、産業高校等の新しいタイプの学校をつくるなどの取組を進めてきました。しかし、年々減少してきているものの、未だに多くの生徒が中途退学しているなどの課題があります。そこで昨年 2 月に新しい高校改革を進めていく計画を策定しました。

その一つとして、この 4 月に都立専門高校技能スタンダードというものを策定いたしました。これは、専門高校の生徒が在学中に身に付けるべき技能、資格の目標を明確にしたものです。

今後とも引き続き、産業界と教育界が一体となって、産業教育の振興に取り組んでいきたいと思っています

す。忌憚のない、ご意見・ご指導をいただければ幸いです。」

来賓を代表して富岡逸郎様よりご挨拶を頂いた後、西澤会長を議長として、事務局から 6 議案が提案され、審議の結果、各議案とも原案どおり承認されました。(総会資料等承認議案は会員企業・学校等に配布済みです。)

本年度の役員を紹介いたします。

会 長	西澤 宏繁(留任)
副 会 長	久保村昭衛(留任)
同	金子 昌男(留任)
同	徳田 安伸(新任) (都立園芸高等学校長)
理 事 長	比留間英人(新任) (都教育委員会 教育長)
常 任 理 事	直原 裕(留任)
同	伊藤 彰彦(新任) (都教育庁 都立学校教育部 高等学校教育課長)

議事終了後、産業界会員功労者(永年会員)の表彰が行われました。本年度の表彰企業は次の 6 社でした。(五十音順)

(株)大崎コンピュータエンジニアリング	太平観光(株)
(株)キクチ	日本自動ドア(株)
(株)キトウ	山崎教育システム(株)

当日ご出席いただきました、株式会社キトウ代表取締役社長 鬼頭眞一郎氏、太平観光株式会社代表取締役社長 北垣繁氏に、西澤会長から感謝状と記念品が手渡されました。



北垣 繁氏 西澤 会長 鬼頭 眞一郎氏

新 会 員 校 の 紹 介

日 本 工 学 院 専 門 学 校

〒 144-8655 東京都大田区西蒲田 5-23-22
TEL : 03-3732-1111 FAX : 03-3732-1112

本校は、1947年の創立以来、「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来創造に寄与する」をミッションとし、最先端の学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、それぞれが各分野の第一線で活躍していることが、本校の教育の何よりもの実績と自負しております。

多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制

長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウと、グレードの高い専門教育を実現するために、創立60周年となる2007年にはカレッジ制を導入しました。総合専門学校のメリットはそのままに、これまでの学科を発展させ、より専門性を追求する学習環境を実現。「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わりました。

「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療」の6つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携すること

で新たなスペシャリスト教育の創造を実現しています。

より充実した教育を提供する「教育設計図」

本校では、就職難の時代に対応し学校の本質である学生への教育をより充実させるべく、長年積み上げてきた教育ノウハウを結集・体系化した「教育設計図」を確立いたしました。これは、“すべての学生に就労に必要なスキルを身につけさせること”を目的とした、全く新しい教育カリキュラムです。すべての学生にこの「教育設計図」に基づいた「専門力」教育を行うとともに、社会人として必要不可欠となる「人間力」の育成にも力を入れ、学生全員が就職・デビューを叶えることができるよう徹底サポートしております。



東京都立武蔵高等学校・附属中学校

〒 180-0022 東京都武蔵野市境 4-13-28
TEL : 0422-51-4554 FAX : 0422-51-3966

本校では、「豊かな知性と感性」「健康な心と体」「向上進取の精神」を教育目標に掲げ、探求力を育てる質の高い授業、異年齢集団の協働力による学校行事や部活動、奉仕体験活動をとおして育成する社会貢献力など、ゆとりある6年間の学校生活の中で、「社会に貢献できる知性豊かなリーダー」の育成を目指しています。

幅広い教養教育の推進

学問の楽しさと奥深さを伝えられるように、基礎基本から発展的な内容まで6年間の体系的な授業が組まれています。また、中学段階から難関国公立大学進学を念頭に置いたバランスのよいカリキュラムとなっており、高校の学習内容を発展的な学習として取り入れています。

問題解決能力を育成する「地球学」

社会の諸問題を地球規模で考える態度を育てるために、「地球学」を設定しています。自然・社会・人文科学を中心に教科横断的な学習を展開しています。

中1では環境・地域・人間・生命などについての6つ講座をそれぞれ体験します。中2では調査・実験・観察・討論など多様な授業形態を取り入れ、グループ研究を行います。中3からは個人の課題研究に発展させていきます。また、中学校で学んだ「地球学」は、高校1年の「奉仕」の授業で、自分の得意分野を生かした奉仕体験活動として、より実践的に取り組み、高校2年の「キャリア」の授業で、将来どのような社会貢献ができるかを考えていきます。

将来設計を立てる「キャリア・デザイン」

自己の将来を見据え、リーダーとして積極的に社会に貢献しようとする意欲・態度を養うために、「キャリア・デザイン」を設定しています。系統的な進路学習を行い、進路希望の実現を支援しています。また、自己分析型ポートフォリオを活用し、以前の自分の振り返りや自己評価をしています。

平成 25 年度「作文コンクール」募集のご案内

当会主催「作文コンクール」の作文を募集中です。対象は都内の中学生と専門学科等の高校生・専修学校生等です。募集要項はすでに各会員学校に配布してあります。7 月末に当会のホームページに掲載いたしますのでご覧ください。最優秀作品には 5 千円相当の、入選作品には 3 ～ 4 千円相当の記念品を、入選者以外の応募者全員に参加賞を差し上げます。入選作品は作文集として冊子にまとめ発行いたします。詳しくは各校の担当の先生にお尋ねください。

【応募締切】 平成 25 年 9 月 13 日（金）

第 23 回全国産業教育フェア愛知大会のお知らせ

○期 日 平成 25 年 11 月 9 日（土）～10 日（日）

○会 場 愛知県産業労働センター（ウイングあいち）、愛知県体育館 刈谷市産業振興センター等

○内 容 式典、研究・意見・体験発表、ロボット競技大会、クッキング・介護技術・フラワーアレンジメントコンテスト、展示・即売（学校生産物）等

下記の大会ホームページを参照ください。

大会 HP <http://www.sanfair-aichi.jp/>

訃報 久保村昭衛 本会副会長ご逝去



久保村氏は、平成 10 年から本会理事、同 18 年から副会長として本会の充実と発展に貢献されました。去る 5 月 10 日の理事会に元気に出席されましたが、その後体調を崩され、6 月 6 日に急逝されました（享年 84 歳）。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

東京都産業教育振興会 ホームページアドレス

<http://www.tosanshin.org/>

事務局より

○「会報」第 144 号をお届けいたします。

編集中に久保村副会長の訃報に接し、意気消沈いたしました。執筆頂きました会員の皆様のご協力により発行できました。感謝いたします。

○東京都の産業教育をさらに発展させるため、情報収集と発信を行い、会員諸兄に役立てばと願っております。「会報」についてのご意見ご感想をお寄せください。

発行 東京都産業教育振興会

〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部

高等学校教育課内

電話 03-5320-6729

FAX 03-5388-1727

印刷 昭和印刷株式会社

再生紙を使用しています